

## II. 社会経済活動と情報

### A. 「協力・協業」を特色づける要因・属性

#### 1. 「協力・協業」の種別

##### a. 組織による協力・協業

統治・ガバナンスの存在  
構成員間の機能分化（「分業」）  
階層構造（ヒエラルキー、hierarchies）  
外部との境界が明確  
例：企業組織  
官僚組織  
教育組織（学校、大学）

##### b. チーム型の協力・協業

構成員は「一体化」  
目的・利害を共有  
緊密な協力・協業  
外部との境界が明確  
例：スポーツ・チーム  
（他組織内部の）作業チーム

##### c. 共同体型の協力・協業

他理由による共同体の形成  
弱い統治・ガバナンス  
目的・利害を一部共有  
外部との境界が明確  
例：地域（市町村）共同体  
家庭

##### d. 「サークル」型の協力・協業

目的を共有、目的による「サークル」形成  
統治・ガバナンスが存在  
加入・脱退が自由  
外部との境界はあまり明確でない  
例：スポーツ・クラブ  
（学校内）サークル

- e. 競争・対立を含む「協力・協業」
  - 広い範囲の主体を含む一般原理・ルールが存在
  - 目的は構成主体ごとに異なる
  - 構成主体間に相互補完性あり
  - 「外部」との境界はほとんど無い
  - 例：市場取引の当事者、競争相手
  - スポーツ・ゲーム（対立チーム、審判、応援、観衆）
  
- f. 非定型な「関係」における協力・協業
  - 目的・利害を一部共有
  - スポット的な必要により協力・協業を実現
  - 類似環境下における協力・協業のくり返し「関係」の成立
  - 例：取引関係
  - 友人関係

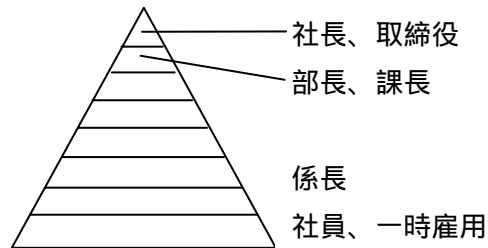
## 2. 「協力・協業」の諸属性

- a. 主体間の利害関係
  - 目的・利害の共有
  - チーム型協力・協業
  - 利害対立を含む協力・協業
  - 競争と協力
  
- b. 協力・協業の存続期間
  - 無期限
  - 長期間
  - 短期間
  - 一時的関係
  - 一回限りの「関係」
  - 日本の特色：長期、無期限を望む（ Why? ）
  
- c. 協力・協業の境界
  - 内部（所属する）
  - 外部（所属しない）
  - 日本の特色：境界を明確化する傾向
  - 不明確な境界を排除（よそもの排除 Why?）

- d. 「協力・協業」の成立方式
  - 非定型
    - 繰り返しによる関係成立
    - 慣習・伝統など
    - 暗黙のルール
  - 定型
    - 法律
    - 契約
    - 組織内ルール
    - 一般的ルールの中で成立（ルールの階層構造）
  
- e. 「協力・協業」の形成経過
  - 自然発生的、追認
  - 意図的、計画的
    - 「日本国」は自然発生的に形成
    - 会社企業の解消、消滅、解散
  
- f. 関係主体の範囲
  - 広い協力・協業（WC）
    - 多数の主体間
  - 深い協力・協業（DC）
    - 少数の主体間
  
- g. 分業・役割分化の程度
  - 平等型、知識共有型
  - 専門・得意分野に分化
  
- h. 階層構造の程度
  - 単層構造
  - 多層構造
    - 組織・グループ階層
    - 統治と被統治

(i) ピラミッド型 :

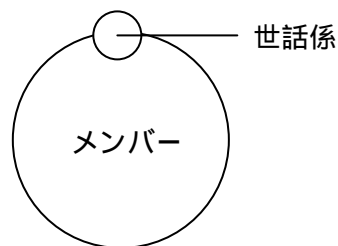
大企業、政府・自治体、諸団体



(最近の傾向 : フラット化電子メールによる情報伝達の効率化による)

(ii) フラット型 :

同好会、サークル (単純な組織)



i. 協業・協力関係の複雑度

単純 : 少数メンバー	}	家族
多数メンバー		村落 (日本の伝統的社会) ムラ社会
複雑 : 少数メンバー	}	現代社会の諸組織
多数メンバー		(例) 政治

日本 : 地域別	都道府県庁	}	複雑・重複階層
職業別			
年齢階層別			

j. 「協力・協業」関係の外部環境の変化の程度

外部環境固定型 (戦後日本の昭和期 : 1945 ~ 1990)

外部環境変動型 (戦後日本の平成期 : 1990 ~ 現在)